

執筆者紹介

李 相禹 (Sang-Woo Rhee)

新アジア研究所所長兼 CEO。ソウル国立大学より修士号、ハワイ大学より政治学博士号を取得。1976年から2003年、西江大学政治学教授、1990年韓国国際関係学会理事長、1993年から1994年、21世紀大統領諮問委員会議長、2003年から2008年ハリム大学学長、2009年青瓦台統一諮問委員会委員および世宗研究所理事、また2010年李明博政権国家安保総括点検会議の議長などを歴任。主な著作に、*Security Environment of Korea*, *Security and Unification of Korea*, *North Korean Politics*, *Theories of International Relations*, and *International politics* がある。

ラリー・ニクシュ (Larry Niksch)

米国戦略国際問題研究所 (CSIS) 主任研究員 (東アジアプログラム担当)、PRS (Political Risk Services) グループ東アジア担当シニア・アドバイザー。パトラー大学卒業、ジョージタウン大学にて外交学修士号及び博士号を取得。43年以上にわたって米国議会調査局 (CRS) のアジア情勢担当スペシャリストを勤めた。CRS 在任中は米国会議員及び議会委員会に対して、米国と東アジア及び西太平洋諸国との関係について情報及び調査研究に従事。米国商務省への出向経験に加えて、1986年にはフィリピン大統領選挙における米国大統領選挙オブザーバーなどを歴任した。

武貞 秀士 (たけさだ ひでし)

前防衛研究所統括研究官、韓国延世大学国際学部教授。慶応大学大学院博士課程修了し、1975年に防衛研究所に入る。研究室長、図書館長を経て2007年より現職。専門は、朝鮮半島の安全保障問題・国際関係、南北関係。延世大学韓国語学堂に語学留学したあと、米国スタンフォード大学、ジョージワシントン大学の客員研究員を勤めた後、国際交流基金の日本研究プログラムの助成を受

けて韓国の中央大学で客員教授として、「戦後日本の外交・防衛政策」の講義を実施した。著書に『恐るべき戦略家・金正日』（PHP 研究所、2001 年）、『北朝鮮深層分析』（ベストセラーズ、1998 年）、共著に『日本の外交政策決定要因』（PHP 研究所、1999 年）など。

スコット・スナイダー (Scott Snyder)

アジア財団米国朝鮮半島政策センター所長、外交問題評議会朝鮮半島研究非常勤主任研究員及び CSIS パシフィックフォーラム上級顧問。ライス大学を卒業後、ハーヴァード大学地域研究東アジアプログラムより修士号を取得。1987 年から 1988 年、大韓民国延世大学にてトーマス・G・ワトソンフェローとして研究。2000 年から 2004 年、アジア財団の朝鮮半島代表としてソウルに滞在。また、米国平和研究所の研究教育プログラム担当官、および、アジア協会の現代問題プログラムの所長代理を務めた。2005 年から 2006 年には安倍フェローシップにも参加。主な著作に、*China's Rise and the Two Koreas: Politics, Economics, Security* (London&Colorado: Lynne Rienner Publishers, 2009) がある。

沈 丁立 (Dingli Shen)

中国上海復旦大学教授、同国際問題研究院常務副院長、同アメリカ研究センター所長。専門は、中米安保関係、地域安全保障と国際戦略、軍備管理と不拡散、中国と米国の外交及び防衛政策等。中国南アジア研究会副会長、上海国際研究学会副会長、上海太平洋経済協力委員会副会長を兼任。1989 年に物理学で復旦大学より博士号を取得。1996 年にはアイゼンハワー・フェローとなり、2002 年にはコフィ・アナン国連事務総長(当時)顧問を兼任。アジア学会グローバル委員会に所属し、上海市当局より上海会議大使に任命された。18 冊の共著書、1300 本の論文及びペーパーを世界各地で発表している。

アンドレイ・ランコフ (Andrei Lankov)

韓国国民大学教授。専門は、北朝鮮の政治・社会史。旧ソ連レニングラード国

立大学及び同大学院修了。1984年から85年にかけてピョンヤンにある金日成総合大学に留学。オーストラリア国立大学を経て、2004年からソウルにある国民大学で教鞭をとる。著書には、*The Formation of North Korea, 1945-1960* (Rutgers University Press, 2003), *Crisis in North Korea: The Failure of De-Stalinization, 1956* (University of Hawaii Press, 2004) など。雑誌や新聞などにも、コラムや記事を多数掲載。

川上 高司 (かわかみ たかし)

拓殖大学教授。大阪大学博士 (国際公共政策)。現在、参議院客員調査員、神奈川県庁参与、日本国際フォーラム政策委員、国際情勢研究所委員、中央大学法学部兼任講師。フレッチャースクール外交政策研究所研究員、(財)世界平和研究所研究員、防衛庁防衛研究所主任研究官、北陸大学法学部教授等を経て現職。米RAND研究所客員研究員、(財)日本国際問題研究所客員研究員等を兼務。著書に『米国の対日政策』(同文館出版)、『国際秩序の解体と統合』(東洋経済)、『パワーブローカーズ』(につかん書房)など多数。

李 正民 (Chung Min Lee)

韓国延世大学アンダーウッド・インターナショナル・カレッジ (UIC) 学長及び同国際研究大学院 (GSIS) 院長。専門は、安全保障問題、大量破壊兵器の拡散、危機管理、国家安全保障計画、防衛技術及び情報等。1982年に延世大学を卒業後、1988年にタフツ大学フレッチャースクールより博士号取得。2010年1月に李明博大統領より国際安全保障問題及び地球規模課題担当大使に任命。2009年4月より英国国際戦略研究所 (IISS) 上級研究員を勤める。2008年より大統領の諮問機関である「将来とビジョン」委員会及び対外政策委員会のメンバーに選出。シンガポール大学客員教授、防衛研究所客員研究員を歴任。